

文部科学大臣殿

公立大学法人神戸市外国語大学

学長 船山 仲他 印

下記の課程を職業実践力育成プログラムに申請します。

記

①学校名:	公立大学法人神戸市外国語大学	②所在地:	神戸市西区学園東町9丁目1		
③課程名:	大学院外国語学研究科修士課程 英語教育学専攻	④正規課程/履修 証明プログラム:	正規課程	⑤開設年月日:	平成16年4月1日
⑥責任者:	専攻代表 教授 立木ドナ	⑦定員:	10人	⑧期間:	2年間 (1~4年選択可)
⑨申請する課程 の目的・概要:	すでに現職教員として教育実践経験をもつ者が、日頃の教育現場で必要とされる高度な英語運用能力や職業人としての専門的な知識を向上させるとともに、日々の教育実践を通して、英語教師としての技術、生徒理解などを含め、教育者としての総合的知識・能力の向上を目指す。現場での実践環境を維持しつつ新たな成長を志向できる教育環境の中で、大学教員と小・中・高校教員が理論と実践を学び合い情報を共有することを基本的姿勢としている。				
⑩4テーマへの 該当の有無	非正規労働者の キャリアアップ	⑪履修資格:	本学修士課程への出願資格を満たす者で、小学校教諭普通免許状1種、2種、専修免許状、中学校/高等学校普通免許状1種(英語)、2種(英語※中学校のみ)、専修免許状(英語)、特別免許状(英語)のいずれかを所持し、入学時に1年以上の教育経験を有する現職教員あるいはそれに準ずる者であり、入学後本学在学中に教育実践ができる場を持っていること		
⑫対象とする職 業の種類:	英語教員				
⑬身に付けるこ とのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) 英語4技能の教授法・指導法、学習者要因の理解等 ① 第2言語指導・及び習得に関する先端的知識 ② 異文化理解能力と指導技術 ③ 英語教育へのICT応用技術		(得られる能力) 高度かつ実践的な英語運用能力・指導力等 ① プロとしての高度な英語運用能力 ② リフレクティブ・プラクティスによる教師としての自律的成長能力 ③ 小中高を見渡せる英語教育観		
⑭教育課程:	(身に付けられる知識、技術、技能) ①第2言語指導・及び習得に関する先端的知識 「4領域の指導法A・B」や「英語教授法」により、様々な学習理論に基づく教授法や4領域の具体的な指導法についての知識を身につけ、現場における実践研究にすぐに応用できるようにする。「英語教育指導分析2」では、授業を通じて学習した理論や指導法を勤務する職場で実践することを求め、ビデオや日誌による記録や担当教員による実践観察評価を行うことで先端的かつ実践的な知識を身につける。 ②異文化理解能力と指導技術 国際語としての英語を教えるためには異文化に対する知識、感受性、柔軟な姿勢が求められる。「異文化理解教育」では、様々な文化的背景を持った学習者をも含めた多様な学習者を想定し、教室において教師に求められる柔軟な文化的対応力の育成をはかる。また異文化シミュレーションゲーム等を用いて応用実践力育成を行う。 ③英語教育へのICT応用技術 インターネットは様々な新しい可能性を外国語教育にもたらし、教室という人工的な空間に世界の情報を瞬時にもたらししてくれるだけでなく、自らの情報を積極的に発信する手段としての機能もあることから学校での英語教育においてネットを中心とした情報収集・発信技術の応用は必修のものとなっており、「教育学と英語教育」では様々な情報技術・機器をどのように英語教育に応用するうえでの知識・技術を習得する。 (得られる能力) ①英語教育の専門家としての高度な英語運用能力 「4領域の指導法A・B」、「児童英語教育法A・B」、「英語教育指導分析1・2」、「チーム・ティーチング」、「アカデミック・ライティング」、「第二言語習得論」、「文学と英語教育」、「スピーチ・コミュニケーションA・B」、「カリキュラム・教材開発論」、「社会言語学と英語教育」を英語で行い、「スピーチ・コミュニケーション」では、様々なテーマについてのディスカッション、プレゼンテーション、スピーチを通して議論のできる英語運用力の育成をはかる。また、「通訳技能と英語教育」では、シャドーイング、逐次通訳、同時通訳等の高度な通訳訓練を通じて運用力の向上を図る。 ②リフレクティブ・プラクティスによる教師としての自律的成長能力 「英語教授法」や「英語教育指導分析1・2」においては内省的アプローチ(Reflective approach)を積極的に導入し、教師としての自分を客観的に見つめることによって教室での事象を分析する技術を修得し、それによって臨機応変の対応や次の授業での変更、個々の学習者の学習過程に注意を払える感受性、観察力、分析力を育成する。特に英語教育指導分析1では授業実践記録を英語で取り、毎週1回Web上に挙げてクラス全員でコメントし合うことで教師の共同力育成と反転的教育実践を行う。 ③小中高を見渡せる英語教育観 中学・高校で教える英語教員コースと児童英語教育にたざさわる小学校英語教員コースを並立させ、カリキュラム上で相互乗り入れをすることで、二つの異なる目的を持った語学教育を同時に視野に入れることを可能とする。				

⑮修了要件(修了授業時数等):	30単位以上の取得及び修士論文等の提出とそれに対する口頭試問等による審査の合格						
⑯修了時に付与される学位・資格等:	修士(英語教育学)、中学校教諭/高等学校教諭専修免許状(英語)						
⑰総授業時数:	40単位	⑱要件該当授業時数:	40単位	該当要件	1, 2, 3, 4	⑲要件該当授業時数/総授業時数:	100%
⑳成績評価の方法:	科目により多少異なるが、受講者の発表を主体とした科目が多いので、出席状況、プレゼン、受講者の討議への参加、レポートを総合的に評価する。						
㉑自己点検・評価の方法:	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末毎に各授業に対する授業評価アンケート(授業に対する満足度や改善を望む項目など)を、修了時に本プログラムを選んだきっかけを、また修了生には学んだことがどのように仕事で役立っているかなどを問うアンケートを実施。 ・担当教員グループによるカリキュラム検討会議を通じて、現役の教員である本プログラムの院生の勤務実態にあわせたプログラムの内容や授業時間の見直しなど、より学びやすい環境形成のため、恒常的に点検・評価を実施。 						
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	<p>修了後の悉皆聞き取り調査(修了後の進路状況等を把握) 効果検証にあたっては、修了後の就職状況だけにとどまらず、本務先で英語教育の推進の中心となっているか(※)を確認することで修得した能力がどう活かされているかを、神戸市教育委員会の協力を得ながら検証。 (※)効果検証の目安(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語活動の大規模な研修会での講師役やオーガナイザー等中心的役割を果たしている ・2014年度より行われている国の指導力向上研修に参加し、各校種での中核教員研修の指導者となっている ・各校での文部科学省、県教委による指導改善の取り組みを中核メンバーとして推進し、導入が進められている CAN-DOリスト作成委員会のメンバーとなっている 等						
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 神戸市教育委員会と本学教員等で構成し毎年度開催する「連携協議会」及び神戸市教育委員会と共催して実施している研修(小学校外国語活動基本研修等)を通じて現職教員のニーズを積極的に取り入れ、本課程のカリキュラムへの反映を行う。 (自己点検・評価) 神戸市教育委員会と本学教員等で構成する「連携協議会」において、毎年度の実施状況について意見を交換・聴取する。						
㉔社会人の受講しやすい工夫:	週末及び夏季冬季の長期休暇期間中の集中講義による履修、長期履修制度(最長4年間まで)の導入						
㉕ホームページ:	(URL) http://www.kobe-cufs.ac.jp/graduate/master/english_edu.html						

事務担当者名:	伊藤	所属部署:	公立大学法人神戸市外国語大学 研究所グループ
連絡先:	(電話番号) 078-794-8161 (E-mail) grad_kcufs@office.kobe-cufs.ac.jp		

*パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。